

## 紫外線除去フィルムを用いた夏秋トマトのママハモグリバエの被害軽減

農業研究センター 農産園芸研究所 病虫部

### 研究のねらい

ママハモグリバエは、県内では平成5年に発生が確認され、現在では野菜・花き類の重要害虫となっている。しかし、現在においても野菜類では登録薬剤がなく、また、様々な殺虫剤の効果も低いため薬剤での防除が困難な害虫である。そこで、高冷地の夏秋トマト産地において、ミナミキイロアザミウマ等で侵入抑制効果が知られている紫外線除去フィルムを雨よけハウスの天井ビニルに用いた場合の被害軽減効果について検討した。

### 研究の成果

- 1 紫外線除去フィルムを使用したハウスでは、普通フィルムを使用したハウスに比べハウス内のいずれの場所においても被害葉率は低く、紫外線除去フィルムの使用によりママハモグリバエの被害を軽減できる。
- 2 ママハモグリバエによる被害は、紫外線除去フィルム、普通フィルムを使用したハウスとも、ハウスの間口付近もしくはハウスサイドで最も大きかった。
- 3 普及地域  
高冷地の夏秋トマト産地

### 普及上の留意点

- 1 紫外線除去フィルムには殺虫効果はないので、発生初期の被害葉の除去等の耕種的防除を行う。
- 2 紫外線除去フィルム被覆下では、作物が軟弱徒長となる場合があるので、生育に応じた肥培管理を行う。

